

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれあい
(ユニット名)	ふれあい
所在地 (県・市町村名)	宮城県柴田郡川崎町大字川内字河原前5-3
記入者名 (管理者)	清塚 富貴子
記入日	平成 19 年 9 月 20 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人としての理念は有りますが、地域密着型サービスとして、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化の理念はまだ作っていません</p>	○	<p>今後職員全員で地域密着型サービスを盛り込んだ理念をキチンと作り、地域生活の継続を支えられるように考えて生きます。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々全員で理念を基にケアしています。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>広報誌の活用や施設の掲示などにより理解していただけるよう取り組んでいます。</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所まではまだまだですが、第二みどりの園の利用者様やショート利用者様とは気軽に来て頂けるようなお付き合いをしていただいている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会や老人会には参加はまだ出来ていないが、地元の保育所や小学校・中学校とは行事や職場体験などを通して交流を図っています。</p>	○	<p>行政区や子ども会を巻き込んだイベントを一緒に企画し、実施できるように取り組んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度より地元の中学校の職場体験学習の受け入れを行った。また命の大切さを学校で推進する事からその受け入れについても協力していける体制を先生方と話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全職員に全体会議で伝え自己評価に取り組むようにしています。結果については、ミーティングや会議の時に報告し改善に向けて検討出来る様努力しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は、民生委員会長と行政区の区長・保健福祉課職員・包括支援センター保健師・鶴寿会常務理事及び各施設の職員で形成されている。各施設の待機者状況や事業の報告・計画などを話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	18年度は地域ケア会議委員。19年度は高齢者虐待防止ネットワーク推進委員及び高齢者虐待防止チーム担当者になっており行き来する機会も多い。また事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題に対しても相談できる体制が出来ている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは今迄なかった。このような研修会が開催される時には参加していただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	川崎町高齢者虐待防止ネットワーク推進委員のため学ぶ機会は多くその後ミーティングを利用しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金や起こりうるリスク、医療連携体制など詳しく説明し同意を得るようにしている。また、状態変化により契約解除に至る場合は、家族と対応方針を相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察することが出来る様努力し、利用者本位の運営を心掛けている。利用者の不安や意見はその都度ミーティングなどで取り上げ改善策を話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の請求書送付の際、本人の記録と金銭出納帳・広報誌や手紙などを添えて郵送している。また、移動の際は手紙を送り報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を玄関に置いている。また、面会時は家族と話し合いを持ち、意見などもらえる機会を持てるようにしている。毎日の朝のミーティング時に報告し反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議などに職員の意見を聞く機会を設け、その都度反映できるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応が出来る様シフトに入っていない。夜間や休日など利用者の状況の変化に応じた柔軟な体制確保が取れている。職員の急病や急な休みの時にも対応できる体制ができています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年から今年にかけて急な異動が続き、利用者・家族がかなり戸惑っていると思われる。新しい職員が入ってきたときには利用者にはきちんと説明は行っているが不安があり、なれてくれるまで時間がかかってしまう。	○ 運営者には職員の移動等により利用者の不安などの影響を話しています。今後も理解していただけるよう説明して行きたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修会には積極的に参加して貰っている。また、認知症実践者研修など必要とされる知識の習得の為に参加も計画的に受けていただいている。研修報告は月一回の全体会議で発表してもらい全職員で共有できるようにしている。研修会参加後は覚えてきたことの一つは必ず実施してもらえよう様働きかけている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価での訪問などを通じてサービスの質の向上を目指している。グループホーム連絡協議会に入っているため、研修会や交流会などには積極的に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在は休憩できる場所の確保はない。	○ 今後管理当直体制もとることから、きちんとした休憩所の確保をお願いして行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は余り現場には来ることがありません。	○ 職員の資格取得が評価の対象になれるよう働きかけて行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について話があった場合は直接ご本人と面談する機会を設け心身の状況や本人の思いを聞き、初めての利用の時に戸惑いがないような工夫をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労やサービス利用の状況など経緯を聞き、場合によっては体験入所もしていただけるような対応をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談は地域密着型になってからは、地域包括支援センターやケアマネジャー等と連携し見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が事業所を見学したり、スタッフが自宅訪問などしながら利用していただいている。また、利用再開時は家族の方の面会や係っていた方などに来て頂き、安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であると言うことを理念に置き、職員が共有している。梅干漬けや漬物季節ごとの行事食などに一緒に教えてもらいながら作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態変化時等は家族と一緒に支援方法を話し合い協力を頂けるよう声掛けしている。利用者の体調変化時は施設に泊まっただき、一緒に介護の協力いただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊など家族と一緒に過ごす時間が取れるよう勧められているし、遠方からの家族の面会には一緒に止まっただきけるよう勧めている。行事などは参加の呼びかけを年何度かおこない、一緒に参加してもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室や理容室・かかりつけの病院など一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員全員で共有し、関係が上手く行くよう職員が調整役になっている。おやつや食事は職員も一緒になり、多くの会話がもてるよう導き出している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了してもお手紙や広報誌を送ったり、その後の支援の相談に乗ったりし、最後までかかわりしていけるように心がけている。また、入院し退所した利用者に対しては、時々顔をみせドクターやナースに状況を知らせてもらっている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声掛けし、把握に努めている。言葉や表情などから意思を確認出来る様な接し方を心がけている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から面会を通して情報を得られるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族や関係者から聞き取るようにしている。また、面会時に少しずつ聞き取り把握出来る様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること、できない事を常に把握するように、職員間の情報交換を行い、一人ひとりに合った過ごし方をさせていただけるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時には、家族とのコミュニケーションを大切にし本人の日常生活を良く観察し、また、職員間の情報交換も日々の記録やコミュニケーションで課題を見つけられるようにしている。家族には面会時や電話などで、要望を聞きだしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に変化があった場合は、本人・家族・職員間で話し合い、見直しをおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果はケース記録に記入し、気づき等は申し送りノートに記入し情報の共有化を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じ、通院介助や外泊時の送迎など柔軟に行っている。また、第二みどりの園の看護師による支援も受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して生活していけるよう、民生委員や地区区長との意見交換する機会がもたれている。また、地区の消防団長が自動非常通報先になっていただいている。中学生の職場体験も受け入れているため、夏祭りのイベント参加もしていただいた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外の訪問リハビリや口腔ケアなど、必要な利用者に対して実施していただけるよう、包括支援センターと蜜に話し合い支援していただけるよう話し合いを持っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加していて、川崎町での独自のサービスや支援などの情報交換や協力体制が出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの本人のかかりつけ医を継続し、本人の訴えがあったときや定期検査などかかりつけ医にお願いしている。また、急変時や夜間などは川崎町の国保病院を利用しており、ドクターより様子などの電話もあり、本人・家族・職員と安心できる体制が築かれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状況に応じ、地元の専門医と連絡相談できる体制が整っている。また、川崎町で、月一回のこころの相談事業があり、ここでの相談も出来る様になっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接して同じ法人内に看護職員が常勤している為、気軽に相談しながら日常の健康管理や医療の支援が受けられる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、ドクターと蜜に連絡を取り合いながら、本人の状態に合わせ早期退院出来る様に連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族と話し合い、かかり付け医師と連携をとりながら職員全員で方針を共有している。	○	国保川崎病院の医師の協力体制の確保が出来ていることから今後もその都度繰り返し話し合い、利用者の状況を把握し対応の協力を継続して行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族・かかり付け医師・職員チームとしての支援に取り組むように検討し準備している。急変した場合はすぐ対応していただけよう医療機関とも蜜に連携をとり情報を流している。	○	隣接した第二みどりの園には看護師が3名おり、急変時や医療行為の対処が充実してきている。今後もこのような関係を継続出来るように体制を続けて行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と十分な話し合いや情報交換を行いダメージを防ぐことに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応を心がけている。家族の方より方言で話しかけてくださいと言われていた利用者にはそのように対応しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションにより思いや希望を表せるように働きかけ、しっかり受け止め、理解し納得出来る様に説明し、本人が納得しながら決められる暮らしが出来る様に支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、利用者の希望に沿った支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所以前から利用していた美容室には、本人の訴えがあったときに連れて行っている。2～3ヶ月に一回のペースで理容・美容の方に来援していただいている。	○ イベントにどの外との関わりがあるようなときには、おしゃれ(よそ行きの服装や化粧)が出来ることにより、生活に張りを持たせたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や簡単な調理(目玉焼きや卵焼き)など朝の準備を手伝ってくれている。野菜切りや食器洗いや食器拭きなど出来る人についてはお手伝いをしていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙者は現在はいません。おやつや飲み物などは利用者の好みや希望を取り入れて日常的に楽しめるよう支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをつかみ時間をみはからい声掛け誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間浴を希望する利用者には、夜間浴対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者には、話し合い手になり、お茶をすすめたりし、無理に寝ていただかないようにしている。日中はなるべく起きていただけるような配慮をし、生活のリズムをととのえる様支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生日には本人の希望の食事を作り、本人の希望のプレゼントを渡している。家族も招待し一緒に祝福していただいている。季節事の行事を実施し、初夏にはさくらんぼ狩り秋にはぶどう狩りと家族も一緒に全員で出かける楽しみを作り気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者は、家族の了解を得て管理していただいている。管理が出来ない利用者には、買い物など外出して自分でお金を使えるような支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外に散歩に行ったり、ドライブに行ったりと、希望にあわせと戸外に出かけられるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により、家族にお話し、家族とともに一泊旅行に行ったり、ドライブしたり出かけられる機会をつくり、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話を自由に利用出来るようにしている。自分でかけられない利用者にはつないでやっている。家族からの電話には、快く取り次ぎをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも出来る様にしていて、利用者の居室で気軽に過ごせる様に配慮している。面会時ご馳走を持参し居室で楽しく会食をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開所以来実施したことはありません。今後も身体拘束はしないケアに取り組んでいきます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関の鍵は掛けますが、日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は2時間毎に巡回を行い、本人のプライバシーに配慮しながら利用者の様子を把握し、安全に配慮しています。日中は自室で過ごしたい方については、プライバシーに配慮し利用者の様子を把握し安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は見えない所に収納し、使用しないときにはロックをかけています。危険物は棚等の利用者の手の届かないところや見えない所に保管し鍵を掛けています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある利用者は常に見守りや手引き歩行を怠らないようにしています。行方不明や火災などに対しては、地域の消防や区長何より、ドリームの郷としての連絡網により協力体制が整っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ヒヤリハットの段階でも報告書を提出し、再発防止の話し合いを行い、事故につながらないように、全員で情報の共有をしている。また、上級救命講習会に参加する事により応急手当の知識を習得できる機会を作っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報システムを導入し、地域住民や地元の消防団に協力を得られるように働きかけている。防災訓練を実施し、利用者や職員の防災意識の高揚に努めている。ドリームの郷として隣接した施設と合同の連絡網が整っていて、災害時に活用できる体制作りをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の起こり得るリスクについて、その都度家族と話し合う機会をつくり、説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、変化が見られたら速やかに所長に報告し、指示を仰ぎ情報を共有し、家族に連絡をいれ、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用、用法や用量について理解しており、症状の変化の確認に努めている。また、かかり付け医師と連携が取れているため、分からないことや不信に思ったことなどはその都度聞ける体制が出来ている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は野菜を多くし、水分補給も声掛けし多めに摂っていただき、お手伝いや散歩などで身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前は、義歯を外し、うがいをし義歯の洗浄剤につけている。また、食後お茶を服用していただき、口腔内の残渣が残らないようにしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある利用者は、かかりつけ医師の指導をうけ実施している。大きさや硬さを考えて調理している。季節や習慣に応じた献立を提供している。水分補給はむせこみや飲み込みの悪い利用者には、常時ゼリーを作り冷蔵庫で保管しその都度食べていただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は家族から承諾を得て実施している。感染症はマニュアルを作成し、職員が理解し対応している。ノロウイルスに対しては、法人で予防策を徹底し各施設で実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夏季期間は生ものの使用をさげ、良く火を通すようにしている。調理用具は使用後は良く洗浄しハイターで消毒している。肉や魚などは当日に納品して頂いている。食材の納品時必ずチェックし新鮮な材料を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には草花を植えたり、周りに畑を作り野菜作りをしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には、利用者の写真や行事の写真を飾ったり、利用者の作品を飾ったりしている。玄関や食堂には季節の花を職員の家から持ってきて飾ってもらい、季節感を採り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間で昼寝をしたり、廊下の隅に長いすを置き、隠れた談話の場となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を頂き、使い慣れた家具や生活用品を持っていただいている。利用者の中には仏壇も持ってきていて、毎日お供えをしていて、自宅にいるときと同じようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適切に実施している(天気の良い日は窓の開閉に配慮している)温度計・湿度計等も常にチェックしている。冬場は加湿器やバスタオルの利用で湿度を保てるようにしているが夏場はクーラーがない為暑さ対策が不十分で夏ばての利用者も多かった。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりの設置があり、トイレや浴室にも設置され安心して生活が送れるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどは大きな文字で表示しているし日付は大きく毎日貼って表示している。その時々状況に合わせて環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は外のベンチで日向ぼっこをしたり、草花積みや草むしりを手伝ってくれ、テラスには洗濯物を干しを手伝ってくれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

行事などはグループホームが中心になり第二みどりの園も巻き込んで盛大に実施している。また、今年の春は船岡の桜を電車から見せたいことから行事委員に中心となっていただき、各駅に協力いただきながら電車に乗り綺麗な桜を見学する事が出来ましたし、電車に乗ることによりまだまだ出かけられるんだという表情が利用者一人ひとりからうかがうことが出来ました。草餅作りや柏餅作りでは、利用者が中心となり昔撰った杵ヅカを活かし楽しく作り第二みどりの園の利用者や職員におすそわけし喜んでいただきました。医師との連携については、とても良くいつも協力的です。家族も利用者とのかわりに対しては協力的で、行事にも大いに参加し、利用者と一緒に楽しんでいただいています。また、毎月の請求には、利用者個人個人のケース記録を送り状況把握をしていただいています。さその時に広報誌も送り好評を頂いています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょ

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれあい
(ユニット名)	ほのぼの
所在地 (県・市町村名)	宮城県柴田郡川崎町大字川内字河原前5-3
記入者名 (管理者)	清塚 富貴子
記入日	平成 19 年 9 月 20 日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人としての理念は有りますが、地域密着型サービスとして、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化の理念はまだ作っていません</p>	<p>○</p> <p>今後職員全員で地域密着型サービスを盛り込んだ理念をキチンと作り、地域生活の継続を支えられるように考えて生きます。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々全員で理念を基にケアしています。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>広報誌の活用や施設の掲示などにより理解していただけるよう取り組んでいます。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所まではまだまだですが、第二みどりの園の利用者様やショート利用者様とは気軽に来て頂けるようなお付き合いをしていただいている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会や老人会には参加はまだ出来ていないが、地元の保育所や小学校・中学校とは行事や職場体験などを通して交流を図っています。</p>	<p>○</p> <p>行政区や子ども会を巻き込んだイベントを一緒に企画し、実施できるように取り組んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度より地元の中学校の職場体験学習の受け入れを行った。また命の大切さを学校で推進する事からその受け入れについても協力していける体制を先生方と話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全職員に全体会議で伝え自己評価に取り組むようにしています。結果については、ミーティングや会議の時に報告し改善に向けて検討出来る様努力しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は、民生委員会長と行政区の区長・保健福祉課職員・包括支援センター保健師・鶴寿会常務理事及び各施設の職員で形成されている。各施設の待機者状況や事業の報告・計画などを話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	18年度は地域ケア会議委員。19年度は高齢者虐待防止ネットワーク推進委員及び高齢者虐待防止チーム担当者になっており行き来する機会も多い。また事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題に対しても相談できる体制が出来ている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは今迄なかった。このような研修会が開催される時には参加していただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	川崎町高齢者虐待防止ネットワーク推進委員のため学ぶ機会は多くその後ミーティングを利用しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金や起こりうるリスク、医療連携体制など詳しく説明し同意を得るようにしている。また、状態変化により契約解除に至る場合は、家族と対応方針を相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察することが出来る様努力し、利用者本位の運営を心掛けている。利用者の不安や意見はその都度ミーティングなどで取り上げ改善策を話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の請求書送付の際、本人の記録と金銭出納帳・広報誌や手紙などを添えて郵送している。また、移動の際は手紙を送り報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を玄関に置いている。また、面会時は家族と話し合いを持ち、意見などもらえる機会を持てるようにしている。毎日の朝のミーティング時に報告し反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議などに職員の意見を聞く機会を設け、その都度反映できるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応が出来る様シフトに入っていない。夜間や休日など利用者の状況の変化に応じた柔軟な体制確保が取れている。職員の急病や急な休みの時にも対応できる体制ができています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年から今年にかけて急な異動が続き、利用者・家族がかなり戸惑っていると思われる。新しい職員が入ってきたときには利用者にはきちんと説明は行っているが不安があり、なれてくれるまで時間がかかってしまう。	○ 運営者には職員の移動等により利用者の不安などの影響を話しています。今後も理解していただけるよう説明して行きたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修会には積極的に参加して貰っている。また、認知症実践者研修など必要とされる知識の習得の為の参加も計画的に受けていただいている。研修報告は月一回の全体会議で発表してもらい全職員で共有できるようにしている。研修会参加後は覚えてきたことの一つは必ず実施してもらえよう様働きかけている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価での訪問などを通じてサービスの質の向上を目指している。グループホーム連絡協議会に入っているため、研修会や交流会などには積極的に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在は休憩できる場所の確保はない。	○ 今後管理当直体制もとることから、きちんとした休憩所の確保をお願いして行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は余り現場には来ることがありません。	○ 職員の資格取得が評価の対象になれるよう働きかけて行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について話があった場合は直接ご本人と面談する機会を設け心身の状況や本人の思いを聞き、初めての利用の時に戸惑いがないような工夫をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労やサービス利用の状況など経緯を聞き、場合によっては体験入所もしていただけるような対応をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談は地域密着型になってからは、地域包括支援センターやケアマネジャー等と連携し見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が事業所を見学したり、スタッフが自宅訪問などしながら利用していただいている。また、利用再開時は家族の方の面会や係っていた方などに来て頂き、安心感を持ってもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であると言うことを理念に置き、職員が共有している。梅干漬けや漬物季節ごとの行事食などに一緒に教えてもらいながら作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態変化時等は家族と一緒に支援方法を話し合い協力を頂けるよう声掛けしている。利用者の体調変化時は施設に泊まっただき、一緒に介護の協力いただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊など家族と一緒に過ごす時間が取れるよう勧められているし、遠方からの家族の面会には一緒に止まっただきけるよう勧めている。行事などは参加の呼びかけを年何度かおこない、一緒に参加してもらっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室や理容室・かかりつけの病院など一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を職員全員で共有し、関係が上手く行くよう職員が調整役になっている。おやつや食事は職員も一緒になり、多くの会話がもてるよう導き出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了してもお手紙や広報誌を送ったり、その後の支援の相談に乗ったりし、最後までかかわり続けるように心がけている。また、入院し退所した利用者に対しては、時々顔を見せドクターやナースに状況を知らせてもらっている。退院後のサービス利用についても家族に相談など受け手伝いをしています。	○	今後も今の様な退所後の本人と家族の関わりを継続し、地域に認められる施設に行きたいと思っています。
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声掛けし、把握に努めている。言葉や表情などから意思を確認出来る様な接し方を心がけている。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から面会を通して情報を得られるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に家族や関係者から聞き取るようにしている。また、面会時に少しずつ聞き取り把握出来る様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること、できない事を常に把握するように、職員間の情報交換を行い、一人ひとりに合った過ごし方をさせていただけるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時には、家族とのコミュニケーションを大切にし本人の日常生活を良く観察し、また、職員間の情報交換も日々の記録やコミュニケーションで課題を見つけられるようにしている。家族には面会時や電話などで、要望を聞きだしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に変化があった場合は、本人・家族・職員間で話し合い、見直しをおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日気付きを記録し、全員が共有出来る様にし、実践や介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じ、通院介助や外泊時の送迎など柔軟に行っている。また、第二みどりの園の看護師による支援も受けている。身体状態が思わしくない方には、特養からベットやエアマットなど借りられるようになっており安心してグループホームで生活を続けていける工夫を実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して生活していけるよう、民生委員や地区区長との意見交換する機会がもたれている。また、地区の消防団長が自動非常通報先になっていただいている。中学生の職場体験も受け入れているため、夏祭りのイベント参加もしていただいた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険外の訪問リハビリや口腔ケアなど、必要な利用者に対して実施していただけるよう、包括支援センターと蜜に話し合い支援していただけるよう話し合いを持っている。また、包括支援センターの保健師からは、皮膚の状態など観察していただき、アドバイスをいただくなど蜜に連絡取り合い、情報の共有に取り組んでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加していて、川崎町での独自のサービスや支援などの情報交換や協力体制が出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの本人のかかりつけ医を継続し、本人の訴えがあったときや定期検査などかかりつけ医にお願いしている。また、急変時や夜間などは川崎町の国保病院のドクターが協力してくださり、直接様子観察にきてくれたり、電話でやり取りしたり、その都度対応をしてもらっているのも本人・家族・職員とも安心感が持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	国保川崎病院の医師の協力体制の確保が出来ていることから今後もその都度繰り返し話し合い、利用者の状況を把握し対応の協力を継続して行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	隣接した第二みどりの園には看護師が3名おり、急変時や医療行為の対処が充実してきている。今後もこのような関係を継続出来るように体制を続けて行きたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>イベントにどの外との関わりがあるようなときには、おしゃれ(よそ行きの服装や化粧)が出来ることにより、生活に張りを持たせたい。(今年の敬老会には、昔着物を着ていた方には、家族にお願いし着物を以て来て頂き、着物で息子さんと出席したことから終始リンとした姿で過す事が出来た。)</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをつかみ時間をみはからい声掛け誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態を確認し、一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しんでもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者には、話し合い手になり、お茶をすすめたりし、無理に寝ていただかないようにしている。日中はなるべく起きていただけるような配慮をし、生活のリズムをととのえる様支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生日には本人の希望の食事を作り、本人の希望のプレゼントを渡している。家族も招待し一緒に祝福していただいている。季節事の行事を実施し、初夏にはさくらんぼ狩り秋にはぶどう狩りと家族も一緒に全員で出かける楽しみを作り気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者は、家族の了解を得て管理していただいている。管理が出来ない利用者には、買い物など外出して自分でお金を使えるような支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外に散歩に行ったり、ドライブに行ったりと、希望にあわせて戸外に出かけられるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により、ドライブしたり出かけられる機会をつくり、支援している。また、ぶどう狩りやさくらんぼ狩り・お花見など家族に協力を依頼し一緒に参加していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話を自由に利用出来るようにしている。自分でかけられない利用者にはつないでやっている。家族からの電話には、快く取り次ぎをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも出来る様にしていて、利用者の居室や談話室などで自由に面会していただいている。一緒にお茶を飲んだりしていただき和やかに過ごして頂けるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開所以来実施したことはありません。今後も身体拘束はしないケアに取り組んでいきます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関の鍵は掛けますが、日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は2時間毎に巡回を行い、本人のプライバシーに配慮しながら利用者の様子を把握し、安全に配慮しています。日中は自室で過ごしたい方については、プライバシーに配慮し利用者の様子を把握し安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は見えない所に収納し、使用しないときにはロックをかけています。危険物は棚等の利用者の手の届かないところや見えない所に保管し鍵を掛けています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある利用者は常に見守りや手引き歩行を怠らないようにしています。行方不明や火災などに対しては、地域の消防や区長何より、ドリームの郷としての連絡網により協力体制が整っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ヒヤリハットの段階でも報告書を提出し、再発防止の話し合いを行い、事故につながらないように、全員で情報の共有をしている。また、上級救命講習会に参加する事により応急手当の知識を習得できる機会を作っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報システムを導入し、地域住民や地元の消防団に協力を得られるように働きかけている。防災訓練を実施し、利用者や職員の防災意識の高揚に努めている。ドリームの郷として隣接した施設と合同の連絡網が整っていて、災害時に活用できる体制作りをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の起こり得るリスクについて、その都度家族と話し合う機会をつくり、説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、変化が見られたら速やかに所長に報告し、指示を仰ぎ情報を共有し、家族に連絡をいれ、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用、用法や用量について理解しており、症状の変化の確認に努めている。また、かかり付け医師と連携が取れているため、分からないことや不信に思ったことなどはその都度聞ける体制が出来ている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は野菜を多くし、水分補給も声掛けし多めに摂っていただき、お手伝いや散歩などで身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前は、義歯を外し、うがいをし義歯の洗浄剤につけている。また、食後お茶を服用していただき、口腔内の残渣が残らないようにしてもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある利用者は、かかりつけ医師の指導をうけ実施している。大きさや硬さを考えて調理している。季節や習慣に応じた献立を提供している。水分補給はむせこみや飲み込みの悪い利用者には、常時ゼリーを作り冷蔵庫で保管しその都度食べていただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は家族から承諾を得て実施している。感染症はマニュアルを作成し、職員が理解し対応している。ノロウイルスに対しては、法人で予防策を徹底し各施設で実施している。食事前アルコールで消毒していただくことを日課にしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夏季期間は生ものの使用をさげ、良く火を通すようにしている。調理用具は使用後は良く洗浄しハイターで消毒している。肉や魚などは当日に納品して頂いている。食材の納品時必ずチェックし新鮮な材料を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には草花を植えたり、周りに畑を作り野菜作りをしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には、利用者の写真や行事の写真を飾ったり、利用者の作品を飾ったりしている。玄関や食堂には季節の花を職員の家から持ってきて飾ってもらい、季節感を採り入れている。畑には季節の作物を作り、利用者と一緒に収穫し楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間で昼寝をしたり、廊下の隅に長いすを置き、隠れた談話の場となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を頂き、使い慣れた家具や生活用品を持っていただいている。利用者の中には仏壇も持ってきていて、毎日お供えをしていて、自宅にいるときと同じようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適切に実施している(天気の良い日は窓の開閉に配慮している)温度計・湿度計等も常にチェックしている。冬場は加湿器やバスタオルの利用で湿度を保てるようにしているが夏場はクーラーがない為暑さ対策が不十分で夏ばての利用者も多かった。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりの設置があり、トイレや浴室にも設置され安心して生活が送れるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりが出来ることを大切にして、日々の生活の中で混乱する事の無いような支援に努めている。たとえば洗濯たたみなどは、職員と一緒にやる事により間違いがなく利用者に渡せるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は外のベンチで日向ぼっこをしたり、草花積みや草むしりを手伝ってくれ、テラスには洗濯物を干しを手伝ってくれている。また、畑を作り季節ごとに収穫を楽しんだりもしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

行事などはグループホームが中心になり第二みどりの園も巻き込んで盛大に実施している。また、今年の春は船岡の桜を電車から見せたいことから行事委員に中心となっていていただき、各駅に協力いただきました、家族にも協力いただきながら電車に乗り綺麗な桜を見学する事が出来ましたし、電車に乗ることによりまだまだ出かけられるんだという表情が利用者一人ひとりからうかがうことが出来ました。草餅作りや柏餅作りでは、利用者が中心となり昔貰った杵ヅカを活かし楽しく作り第二みどりの園の利用者や職員におすそわけし喜んでいただきました。医師との連携については、とても良くいつも協力的です。家族も利用者とのかわりに対しては協力的で、行事にも大いに参加し、利用者と一緒に楽しんでいただいています。また、毎月の請求には、利用者個人個人のケース記録を送り状況把握をしていただいています。さその時に広報誌も送り好評を頂いています。